

新 ビジネス推進室

新聞社の2大収入源は広告収入と販売収入ですが、新ビジネス推進室の役割は、新しい事業を創出して新たな収入源を作ること。2020年に出来たばかりの新しい組織です。ただ「収入源」と言っても、利益だけを求めていればいかというところではありません。ビジネスは、ユーザーの皆さんに「お金を払う価値がある」と思ってもらわなければ成り立ちませんので、イコール「沖縄の人々の課題解決や幸せにつながるもの」だと考えています。仕事の進め方は、新聞社がこれまで培ってきた情報発信力や配送網などの経営資源を活用しながら、外部企業と



総務企画局

従業員の給料や手当、社会保険料などに関わる業務を全般的に担当しています。月末の支給日に向け、毎月の変更点を確認し、修正する作業が主な仕事です。社員の給与にかかわるので、間違えないよう入念にチェック作業をしています。顧問契約をしている社会保険労務士事務所のアドバイスを受けるながら、社員に有利になる給与支給方法の検討などもしています。社員や社の負担を少しでも減らせた時はやりがいを感じます。社員と社の両方にとってメリットがあれば、積極的に提案しています。

沖縄の「幸せ」求める

の連携により新しい事業を生み出す、というイメージです。県内企業のデジタル施策を後押しするためWeb系企業と協業したり、高齢社会でニーズが高まるヘルスケア事業の展開に向けてバイオ系企業と提携したりと、取り組む領域は様々。最近はスタートアップ企業との連携も始まりました。

今の部署に配属される前の約13年間は、本社と東京支社で広告やイベントを担当していました。ある程度のノウハウが出来上がっていたそれまでは違い、正直に言うとうまくいかなかったことが多かったと振り返ります。でも課題を一つ一つクリアしてい

「公正公平」を大切に

仕事をする上で重要視しているのは、「公正公平」。社会保険や税については、専門的な知識がないと分かりにくい部分も多いので、社員には丁寧で分かりやすい説明を心掛けています。実は入社以来、編集局の経験が長いのですが、どの部署でもやりがいを見つけ出し、一生懸命取り組むことが大切だと考えています。社内の課題や問題を見つけて改善する流れは、記者としての経験が生きている部分もあると感じています。

就活生へのアドバイス

自分がどのように働きたいかのイメージを持つことが重要です。必ずしも希望通りの部署に配置されるとは限りませんが、「この部署ならこういうことがやりたい」と想定することで、どのような知識を蓄えて置くべきか見えてきます。

自分のしたいことについてテーマを持った方がいいでしょう。例えば記者職なら比較的自由度は高いし、持分の仕事を自分のやりたいテーマに引きつけていくことはできます。

世の中の動きを知る意味も含めて、新聞はぜひ読んでほしい。図書館には全国の新聞も置いて



外間 愛也

ほかま よしや
2007年入社

所属部署

総務企画局人事グループ

趣味・特技

趣味は読書・バイオリン。特技はルービックキューブを全面そろえること

プライベート

あります。県内の新聞との違いも含め、どういう記事が載っているのか、どういう作り方になっているのか。調べることもいいと思います。

休日は子どもと外へ遊びに行ったり買い物に行ったり。大学のサークルでバイオリンを始めて今も趣味として続けていて、オーケストラの演奏会にも参加しています。仕事とは違う趣味をつくることは仕事の息抜きにもなります。趣味での外部との交流が仕事につながることもあります。

就活生へのアドバイス

くことで会社の可能性が広がると思えますし、自分自身の成長にもつながっていると感じます。プレッシャーはありますが、「失敗も自分の役割の一つ」と聞き直しているところもあります。たくさん失敗して改善する。失敗を失敗で終わらせない「しつこさ」を持ち続けようと思っています。

プライベート

新聞社という記者職志望の方が多くいますが、「沖縄のために仕事したい」という想いであれば、新ビジネス推進室にも通じるものがあります。報道の力で地域に貢献するか、新商品やサービスという

休日は主に子どもと公園で遊んだり、ランニングをしたり。最近ではランニングデビューしました。テント設営後に飲むビール、外で作って食べるご飯がもう最高で、しばらくはハマりそうです。オン・オフはしっかり切り替えて休日を過ごしています。



根路 祐二

ねろめ ゆうじ
2007年入社

所属部署

新ビジネス推進室

趣味・特技

サッカーはやる側から観る側へ転向。海外サッカーよりJリーグ派。名古屋グランパスサポーター歴 20数年

地域と共に ②

お笑いニュースペー Bar



お笑い芸人のまーちゃん（小波津正光）と琉球新報社によるコラボレーション企画が、琉球新報社1階エントランスで行っているスタンダップコメディ、「ちよい呑み処 お笑いニュースペー bar」です。

まーちゃんがマイク1本で笑いを生む表現の原点で、新しいムーブメントを起こそうと始めた企画です。2019年11月から毎週水曜日に琉球新報社1階エントランスで行っています。

舞台は約1時間半で、前半でスタンダップコメディ、後半ではユー

チューブの生配信番組「まーちゃんねる沖縄」の公開収録を行っています。コロナ禍では中止した回もありましたが、ライブ配信で笑いを届けました。

スタンダップコメディは、欧米を中心に海外では一般的な話です。即興性が高く、ニュースとの親和性も高い特性を生かして、新聞記事もテーマに取り上げ、新鮮な笑いを繰り広げています。マルチディスプレイも活用し、新報ならではのお笑い空間を作り上げ、仕事帰りのサラリーマンやお笑いファンを楽しませ

せています。

ゲストが参加する回もあり、お笑いコンビ「ウーマンラッシュアワー」の村本大輔さんとトークを繰り広げたり、琉球新報社の記者が取材の裏話を披露したりしました。

まーちゃんは「ニュースの発信地である新聞社から新鮮な情報を料理し、お客さんを楽しませる」「観客の共感を得ながら、集まった人々の心に余裕が生まれる空間をつくりたい」と毎回、意気込んで楽しいステージを繰り広げています。



ブレークスルーTシャツ

那覇市にあるバスケットボール専門店「ステップバイステップ」と琉球新報社が2020年8月、「ブレークスルー」Tシャツを共同で制作し、同店で販売しました。

「ブレークスルー」は20年5月23日付から運動面で掲載している連載です。「現状を打破する」「壁を突破する」という意味のタイトルで、さまざまな栄光や挫折を経験しながら日々成長するスポーツ選手や指導者、チームの挑戦を描き出しています。連載は21年11月13日付で47回を数え、読者からも好評を得ています。



Tシャツは白と黒の2色あり、ブレークスルーのタイトルの下に「私たちは団結しないとイケない」という意味の英文も書かれています。

ステップバイステップの担当者が連載を読んで、コロナ禍で社会に閉塞（へいそく）感が漂う中、「ブレイクスルー」という言葉をあしらったTシャツで県民を勇気付けられたらと発案しました。